

国立大学等の基盤的設備等整備対策 【文部科学省】

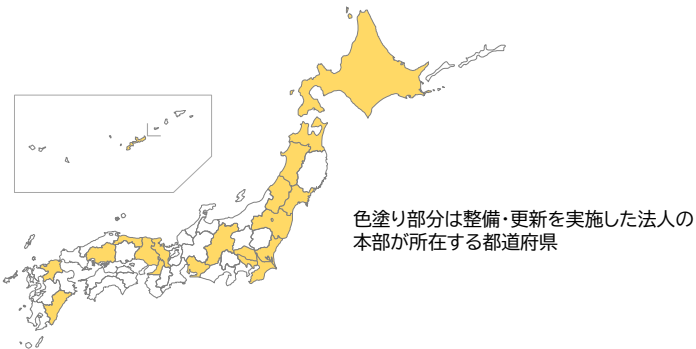
施策概要 災害発生時における情報通信機能の確保や人命保護等に係る対策等を講じるため、国立大学等の基盤的設備等の整備・更新を実施

効果 災害によるシステム停止を防止し、迅速かつ確実な情報収集・伝達や医療機器を用いた人命救助に寄与

■ 全国的な対策と効果

災害対策に資する国立大学等の情報ネットワークシステム等の基盤的インフラ設備等を整備

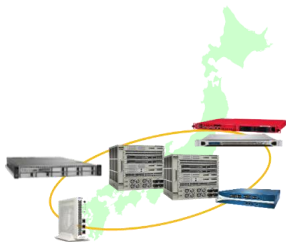
全国の国立大学等における整備の実施状況



整備する設備のイメージ

情報ネットワークシステム

大学内のネットワーク通信環境を更新・高速化することで、教育研究等のデジタル化を推進するとともに、災害発生時における情報通信機能を確保することが可能となります。



洗浄・滅菌管理システム

処理速度や機能・質を向上させ、災害発生時においても迅速かつ確実に滅菌可能な治療環境を実現させるとともに質の高い医療サービスを安定的に提供することが可能となります。



■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
-	26億円	7億円
R6	R7	累計
24億円	10億円	68億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



整備事例

デジタルキャンパス情報ネットワークシステムの整備



国立大学法人旭川医科大学



北海道旭川市(国立大学法人旭川医科大学全域)



基盤的インフラ設備の強化に向けた緊急対策

■ システム整備のイメージ



■ 事業費

4.5億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)4.5億円)

■ 事業の背景(地域の課題)

災害発生時においても国立大学である旭川医科大学に求められる機能を維持していくためには、基盤的インフラ設備の整備を通じた機能強化、防災・減災、国土強靭化を着実に進めていくことが必要不可欠です。一方で、旭川医科大学では平成7年度にネットワークシステムを配備し、その後、平成13年度に全体更新を行ったものの、システム稼働後20年が経過しており、原因不明の通信断が発生するなどの障害発生が生じていました。

■ 事業の内容

老朽化した全学のネットワーク機器の更新を行い、安定性・信頼性・利便性の高い有線の情報基盤を再構築し、遠隔授業の円滑な実施を可能とするネットワーク環境を整備しました。さらに、有線と融合させた大学ローカル5G網を構築してモバイル環境を強化しました。

■ 見込まれる効果

大学全域のネットワーク通信環境を更新・高速化することで、教育研究等の機能強化とともに、災害発生時における情報通信機能を確保することが可能となります。また、遠隔医療システム等の充実により災害時でも安定した医療活動にも資することができます。

人命・財産の被害最小化

激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

交通・ライフラインの維持

インフラの老朽化対策

施策のデジタル化

国土強靭化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

災害関連情報の高度化